

会 議 録

会議名	令和6年度第4回印西市子ども・子育て会議
開催日時	令和7年2月28日（金） 午前10時から午前11時15分まで
開催場所	印西市役所 農業委員会会議室
出席委員	松山毅 会長、和地朝子 委員、武藤茂 委員、周郷真由美 委員、渡辺恵美 委員、 木内郁美 委員、篠原裕子 委員 計7名
欠席委員	葛生茉布美 委員、大澤成行 委員、植村直子 委員、穂戸田和宏 委員、金子貴子 委員 計5名
出席職員等	〔健康子ども部〕 部長 田口光浩 〔事務局〕【子育て支援課】齊藤利裕、小川敏博、黒田学、清田和広、竹下和也 【株式会社ぎょうせい】長澤洋、酒井司 （関係課）【保育課】藤巻孝、成田勝也、 【子ども家庭課】坂本郁子、小森谷幸一 【指導課】石川真樹子 【生涯学習課】飯島正義、飯塚知明 計15名
傍聴者	なし
会議次第 議 題	1 開会 2 議題 （1）印西市こども計画の策定について【資料1関係】 3 その他 4 閉会
配布資料	【会議次第】 【資料1関係】印西市こども計画（案）、概要版 【資料1-1関係】市民意見公募（パブリックコメント）の結果について 【資料1-2関係】印西市こども・若者意見聴取フィードバック資料

会議概要・審議経過

会議の公開と傍聴規定について

会議の録音並びに会議録の要約筆記及び署名について

会議の開催について 定足数に達していることを報告

会議資料の確認

1. 開会

2. 議題

(1) 印西市こども計画の策定について

○資料1、1-1、1-2に沿って事務局より説明

【議 長】それでは議事を進めていきたいと思います。まず、パブリックコメントについてみなさん意見がありますでしょうか。いただいた意見のうち1か所計画に反映しているということですが、この結果はホームページに掲載するのでしょうか。

【事務局】パブリックコメントに関しては、本編と概要版を閲覧等できるようにしていました。意見については2名からいただき、その結果としてすでにホームページに掲載しています。

【議 長】これまでの子育て支援中心の計画に対し、今回の計画で加えたところ、どこが新しく加わったということがわかる資料があるとよかったのかなと思います。パブリックコメント意見の反映など、意欲的に作られたと思うので、そこを強く言っではどうかと思います。

【事務局】新規事業等わかる資料としては前回お示したところですが、例えば78ページ、事業番号8の「送迎保育ステーション」、また86ページ、事業番号25の「こどもの居場所づくりの推進」があります。今回の計画はこども大綱のライフステージ別に計画全体を組み換え、大綱の重要事項を反映、こどもの意見を反映、既存事業で前計画に掲載なかったものでも、「キッズゾーンの設置」、「自然環境に関して」などは、こどもワークショップの意見をもとに記載しました。「ネットリテラシー教育」、「こども110番の家」も前計画に記載なく今回追加しました。このようにいくつかの事業はアンケートやワークショップの意見により追加したところです。

【議 長】新規事業はどれかなと思ったので伺ったところです。調査などの背景を踏まえて、既存事業の見直し、課題も再度位置づけして計画を作り直したということで、この先、既存事業であっても目的や方針を新しく位置づけしなおした計画で進めていくことが大事、と理解しました。

【委 員】推進体制とありますが、計画の遂行がこの先は大事で、これだけのものを市はやっているということを自信をもって周知していくことが大事だと思います。市民を市は応援しているということを、子育て世帯以外にも知ってもらいたい。このような計画の概要版の配布などはぜひとも実施をしてもらいたい。千葉ニュータウン中央駅を中心に大きな企業が来ています。こういった企業にも市の子育ての取り組み理解してもらって協力してもらえないかと思いましたので、そのためにも周知をお願いします。

【事務局】いろいろな機会で周知を図りたいと考えています。企業との協働も、例えばこどもの居場所づくりなどで今後協働できればと模索しているところです。

【議 長】居場所はこどもワークショップでも話題がありました。企業とのコラボも、印西市の特徴となり得るものなのでしっかりと願いたいと思います。

【事務局】新しい年度で、学童クラブの所管が教育委員会に移る予定です。放課後子ども教室の事業とともに教育委員会で一括して取り組むこととなります。また、従来、教育委員会所管であった幼稚園を保育課で

事務を行うことで、就学前については、保育課を「保育幼稚園課」として名称も変え来年度から取り組むというように体制を整えていく予定です。

【議 長】学齢になる前と後で体制を変えるということでもあります。

【委 員】私は総合福祉センターの職員です。昼間はこどもと自分だけ、という親などが様々な悩みを抱えています。解決できるものと、解決しにくいものがあり、それらを次の支援につなげていくことが大事だが、我々でもどの部署につないだらよいか、というところがわからないでいたりします。保護者も、どこへ相談に行けばよいのか、という実情ですので、当事者が、どこへ相談に行けばよいかわかりやすいような体制になるとよいと思います。

【事務局】こども家庭センターには、専門職がおりまして、現在も子育て支援センターに出張して相談対応もしています。来年度はもっと積極的に支援センターを回っていきたいと考えています。もっと複雑な家庭問題、仕事の問題など重層的な課題には、来年度、総合相談窓口として総合相談を受けるところを設置する予定です。88ページの事業番号29の「福祉の総合相談窓口の設置・運営」がそれであります。

【議 長】入口はちょっとした子育ての悩みでも、背景には経済的問題、家庭内の状況、保護者の病気など、そういった深い問題があっても、子育て支援センターだけでなくその後ろに支援をつなぐところがちゃんとあってくれれば皆安心できます。総合相談窓口の担当部署が社会福祉課となると、課をまたぐことになるが、横断的、重層的に、総合相談窓口にどんどんつなぐということを庁内関係各所に周知してもらえればと思います。特に専門職にこそ知ってもらえるようになるとうよいと思います。

【委 員】以前、障がい福祉課の児童発達支援関係の説明会に出ました。80人くらいの保護者がいたが、切羽詰まっているお母さんが多く、そのままの言葉を借りれば「学童を追い出された」、「行くところを探している」、「家で見きれなくて手が出そうになる」などの声もありました。学童保育については、放課後に過ごせる場所の拡充などありますが、133ページでは「子育てしやすい環境だと感じる」が5割いるのに、「情報提供方法への満足」は少ない。学童保育を探している親が、今度から教育委員会の所管になって、利用者またがーから事情説明する必要などないようにしてもらいたいです。また市民へのPRをもっとしていただけたらと思います。

【事務局】市長からもアピールが足りないのではとされていますので、PRはもっとやっていく必要があると考えています。

【議 長】学童保育と放課後子ども教室は本来違うものであり、学童保育は福祉施設で、福祉の意味合いが強い。例えば「適応指導教室」という言い方をしなくなったのも、教育の意味合いの強い言葉から改まったものであります。学童保育と放課後子ども教室で、教育と福祉が協働し、双方をうまくつなげられるとうよいです。ライフステージごとで分けることも大事だが、同じ年代で福祉・教育という事業目的の違いもしっかり意識する必要もあると思います。

【委 員】市民は受け身ではなく自分からもっと求めていく必要があると感じました。情報提供が足りないと言っているだけではなく、自分から求めていかなければいけないとも思います。

【議 長】主体性ということです。こどもも、こども目線でこれを見て、自分の問題、自分たちのことだと考えることが大事。このこども版でこどもが主体性をもって使えるかと考えると少し違いそうな気がします。こどもが主体的に参加する、それをサポートするのが行政の仕事であるのかなと思います。こどもが自分の問題として入っていけるように取り組んでももらいたいと思います。

【事務局】今後もこどもたちからの意見聴取は継続して施策反映していきたいと考えています。

【議 長】自分の言ったことが反映されたとわかる、見えることが大事だと思います。

【委員】こどもに障害がある保護者などは余裕がなく、相談でも「普段行っているところに相談しよう」となります。普段行っていないところに相談となるならば、やはり周知がほしいと思います。イベントなどを通じてでも、そこにこどもを連れて行った時などに、「こんなことをやっている」という案内を配るなどあればよいと思います。

【事務局】「相談したくてもわざわざ行かなければいけない」、「こどもが小さくて相談に行きにくい」などもあるのだと思います。子ども家庭課の「こまつなLINE」は、AIではなく職員がLINEを使って答えています。そのため、常時の即答にはならなくても、まず匿名の相談で相談のハードルを下げて、やりとりの中で信頼度が上がり、相談の中でこどもの様子の画像を送ってくれたりして、もっと深い相談につながるという形ができています。妊娠届け出の際や、支援センター窓口での周知などを行っており、いんざい子育てナビ（ホームページ）などから登録できるようになっていますので、どんどん周知していきたいと考えています。

【事務局】情報を得る機会についてですが、千葉ニュータウン中央駅南口にコスモスパレットという新施設が出来ます。いろんな機能が集約された施設になるので、何かで訪問された時、さまざまな情報が目にふれていくよう工夫したいと考えています。

【委員】高2、中3、中1のこどもがいます。印西市に転入して来て、子育て支援センターが充実しており、スタッフの親身な相談対応にも驚き、感謝しています。小学校、中学校となると行政と離れていってしまうという感覚もありましたが、こどもの意見にもあった、「気楽に行ける場所」、「勉強できる場所」などあれば、うちの子も行けるなど感じました。LINE相談も、中学生でも使えるようなサービスがあるとよいなと思いました。

【事務局】小・中学校は1人1台タブレットがあります。悩みがあればそこでも発信できるようにしています。また、学校保健室の前に「そうだん箱」を置き、誰と、何を相談したいなどの希望を入れられようにして、こどもたちの悩み解決に取り組んできています。LINE利用についての意見は、その安全性なども考慮する必要もありますので、今後、よりこどもにとって相談しやすいものと考えてまいりたいと思います。

【議長】私は学生の相談も聞いていますが、近しい人ほど、例えば友人、学校などにはかえって相談したくないということもあります。相談はまずきっかけ、つながりやすい、が大事だと思います。このこども版でも窓口への2次元コードなどをつけて、小・中・高校、また不登校の子でもアクセスし、声をあげやすくする工夫などを考えてもらえればと思います。中・高生が「周りを気にしないで遊べる場所」、「騒いでもいい場所」、「勉強できる場所」などがあればという意見もありました。彼らには自動車のような移動手段はないので、各所に、バンド練習でも勉強でもできる、といった場所が増えればと思います。

【議長】概要版について、こども版はどう配布するのですか。

【事務局】各学校、幼稚園、保育園、図書館などに置いて見てもらえればと考えています。内容は、ご意見を受け、まずこどもが理解し、自分も主体的に関わる意識を持てるという趣旨に沿って考え直したいと思います。

【議長】こういう場合はこうすれば、といった内容が書いてあるとよいと思います。こども版だったら、A4の両面くらいでもよいかもしれません。大人向けの概要版とは中身も変えて、計画書はボリュームがあるので、せつかくライフステージによる体制、対応を進めていくのだから、1枚でよいからライフステージごとに各課が担当する事業などをまとめた1枚があるとよいと感じました。横軸がライフステージで縦軸に事業というイメージで、一目で見やすくなるので、これに間に合わなくても、1枚そういうものがあって説明などで使えればみんな理解してくれるのではないかと思います。

【議 長】それでは、この子ども子育て会議内の意見として、事務局から提案のありました、案を来年度からの新たな計画、「印西市こども計画」として、賛同されることにご異議はありますか。

【委 員】（異議なし）

【議 長】資源整備や人口動態に合わせて、数値目標に向けて、という事業はやりやすいが、こういった、ビジョン、考え方に向けて取り組む、というのはやりにくい面もあります。今回、目標も設定して進めていくのはよい進歩だと思います。保護者が、子育てしやすいと感じるようになるのが行政の仕事、企業と違ってお金儲けではなくそれができるはずです。委員の皆さまもそこに協力していただければと思います。他になければ以上とします。

＜特になし＞

3. その他

【議 長】その他として事務局ありますでしょうか。

○計画策定に係るこれまでの議事運営等の協力に対し事務局よりお礼

4. 閉会

【議 長】 それでは以上で、議事議題、報告は終了になります。
以上をもって、第4回子ども・子育て会議を閉会します。

○事務局より連絡事項等

- ・委員報酬について
- ・会議録の署名委員について

令和6年度第4回印西市子ども・子育て会議の会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和7年3月 日

子ども・子育て会議委員

子ども・子育て会議委員